

総務常任委員会

教育民生常任委員会

産業建設常任委員会

夜間の避難も意識した整備を

各戸に防災無線が設置されており、各所に拡声器があり避難を呼び掛ける体制が整っています。奥尻町は地震発生から津波襲来までの時間が短くなることが予想されるため、高台までの避難路が100メートルおきに設置されており、夜間でも見えるようソーラー付きの案内板が設置されています。

の避難場所として人口地盤「望海橋」が整備されています。これを利用して災害時は高台に逃げ、平常時はイベント等多目的広場として利用しています。

防潮堤については宮古市田老を参考にした町づくりを行っています。また水門は震度4以上の時に閉まる構造になっており、漁業者



各所に高台への避難路が

避難訓練は日時を知らせず実施

平成13年に建設された「奥尻島津波館」には、震災当時の子どもたちの作文、鎮魂と記憶のモニュメントがつけられ、災害を記録した映像と復興までの再現を伝えていますが、維持管理費が多く掛かっている現状もあります。



記念モニュメント
周囲の壁に全犠牲者の氏名が

震災後に学校統合が進められ、2校あった小学校が1校になりました。高校の生徒数は50人ですが、北海道知事の方針で、離島振興のため廃校にしないということで、学校における防災教

育は、マニュアルがあり学校で計画、実施していますが、子どもたちには避難訓練の日時を知らせずに行っています。

人材育成などの取り組みの検討を

当町をはじめとした広域の被害とは対照的な局地被害に対して、全国から集中した義援金等の財源が十分にあり、土地の買い上げ、買い取りを同じ単価としたため自主再建が進みました。さらに自営事業者に対しては、再興できるような数千万円レベルの補助を実施したことが、早期の観光受け入れ体制整備につながりました。

主産業である漁業においても同様のレベルの補助金の投入があり、短期間での復興宣言がなされま

した。後継者の育成は当町と同様の悩みであり、人材育成・資源の開発などの独自の取り組みは詳しく検証し、検討すべき課題と感じました。

育は、マニュアルがあり学校で計画、実施していますが、子どもたちには避難訓練の日時を知らせずに行っています。



土盛りの上に住宅を再建

一般質問 町の考えを聞く

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などについて所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をたずねることです。12月定例会では、9人の議員が一般質問を行いました。掲載している質問は、紙面の関係から内容を要約しています。

質疑全文を記録した会議録は、26年3月中旬頃から役場5階の議会図書館で閲覧可能となる予定です。

平成25年10月28日から30日までの3日間、北海道奥尻町を訪問し、北海道南西沖地震からの復旧・復興の取り組みについて、本町の施策の参考とするため視察研修を行いました。